

景況調査

報告書 NO. 47

平成22年 4月～6月 実績
平成22年 7月～9月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成22年度第1四半期(H22. 4～6月)景況調査

1. 調査時点 平成22年7月

2. 調査対象

(1)対象地区

蒲郡市内

(2)対象(回答)企業

145[140企業、5団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	52 (3)	13 (1)	21 (1)	32	17	10	145 (5)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前年同期比で見ると△26.2、前期実績(1～3月・△31.8)と比較すると5.6ポイントの上昇、改善の傾向が見られ、前期比については△33.4、前期実績(1～3月・△34.6)に比較すると1.2ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で見ると△30.0、前期実績(1～3月△26.4)と比較すると3.6ポイントの悪化が見られた。**収益DI値**については△35.7、前期実績(1～3月 △40.0)と比較すると4.3ポイントの改善が見られた。**総合判断来期(H22.7～9月)見通し**については、△30.3、前期実績(1～3月△44.5)と比較すると14.2ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。

「**製造業**」のうち食料品は、深刻な販売不振の時期から売上は回復しつつあるが、個人消費低迷により採算面で苦しい状況が続く。織物は主力商品であるジャカードカーテンの稼働率は30%前後で推移。白生地織物は稼働率70%前後で推移。先染織物は、先染の仕事が極端に少なく空台が目立つ。何れの織物も、短納期小ロットにより稼働率が低下し、原材料費(特に綿糸)上昇から採算面も厳しい。名門産元商社の自己破産により、仕事量の減少と資金繰り悪化は不可避。漁網・ロープのうち、漁網関係は、季節需要もあり操業は前年並みも採算は厳しい。建築ネットは受注減で厳しい。スポーツ用ネットは需要期であった。繊維ロープは、生産出荷とも前年並み。輸入も同水準。産業資材商社破産の影響が懸念される。鉄工のうち、工作機械関係は、昨年の最悪期に比して3倍程度の需要増。外需の回復に比べ内需が鈍い。自動車部品関連は、リコール問題による減産があった時期に比べ回復傾向。生産拠点の海外移転が進み国内生産は縮小傾向。化学・プラスチックのうち、化学工業は、国内向けは改善傾向。海外は中国向輸出が好調で伸びているが、円高が懸念材料。プラスチックは、前期比で売上は横バイの状況であったが、原材料価格の上昇を販売価格に転嫁できず収益が苦しい。「**建設業**」は、公共工事・民間工事ともに厳しい状況が続いており、依然として低迷が長引いている。「**卸売業**」のうち繊維卸は、産業資材関連：車両関係は回復傾向だが先行きが不透明。寝装関連：昨年の「ジェル」商品のように市場をリードする物がなく低価格商品中心に推移し苦しい。

インテリア関連：業界全体で厳しい状況。具体的な打開策も見つからず。衣料関連：春夏物も天候不順で不調。秋冬も厳しい見通しで苦戦が続く。「**小売業**」は、消費が期待できる時期であったが、景気悪化の影響が依然としてあり、殆どの事業所は売上の減少となっている。飲食は、前年並み。4月の歓迎会需要はあったが、GWは期待したほど客足が伸びなかった。石油は、国際経済の混乱が一段落し原油価格が徐々に上昇し始めるなか、SS業界では、全体の出荷量も減少傾向で、収益面での悪化にも拍車が掛かっている状況。「**サービス業**」のうち旅館は、宿泊者数は前年同期比で微減も、夏休みを含む来期に期待。観光施設は来客数が戻りつつあるも、売上・顧客単価等は厳しい状況。「**運輸通信業**」のうち旅客・水運は、海運関係：国内は持ち直し傾向も、力強さに欠ける。中国・東南アジア向けの鉱工業製品が増加傾向である。バス業界関係：観光バスは前年同期比で回復しつつある状況。

設備投資状況は、34事業所(46件)で設備投資が実施され、生産設備・他に投資された。来期は26事業所(40件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化、消費者ニーズの変化の対応、販売納入先からの値下げ要請が項目別・業種別で上位を占めていた。

当地区においては依然として、デフレ経済状況の中、個人消費・設備投資の低迷、円高、中国・アジア製品の輸入拡大等の影響を受け、売上・収益・総合判断の各DIともに依然として水面下に留まったが、底は脱しつつある。当所としては、ひっ迫する企業の資金繰り支援の為の金融相談会等の対応策を実施。また各制度融資の普及促進、および「新産業創出」を柱とする蒲郡商工会議所アクションプランを更に推進し、地域経済の振興・活性化を図っていく所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位: %)

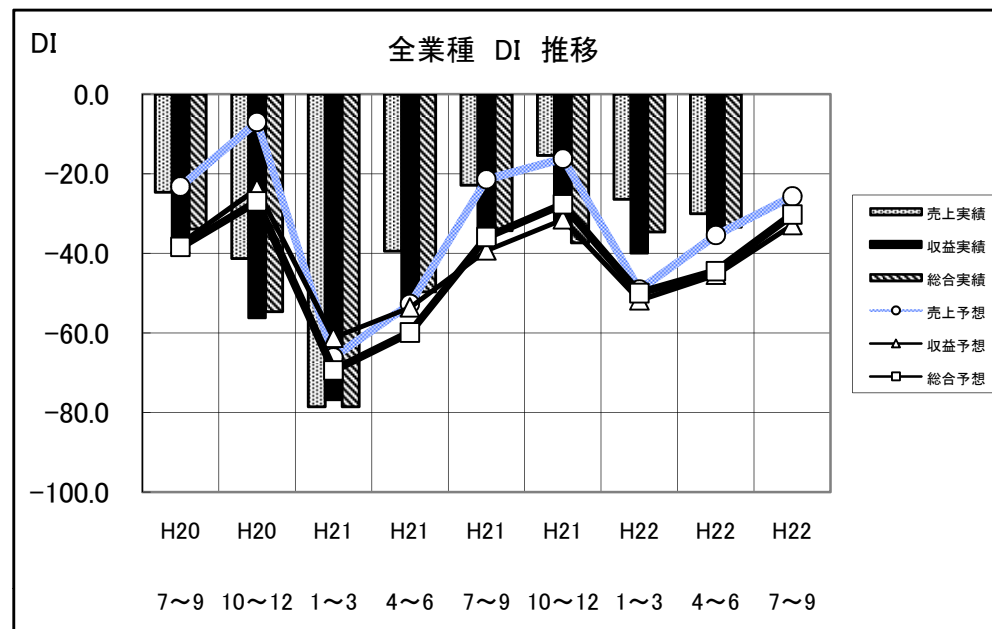
<全業種 各項目別推移>

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-20.0	-30.0	-25.7	H21. 4～6月実績	-75.2	-39.4	-71.8	-52.1	-70.1	-49.6	-35.9
②製品・商品在庫	-7.0	-9.3	-7.1	H21. 7～9月実績	-68.6	-22.9	-64.8	-38.1	-63.8	-34.3	-27.7
③資金繰り	-16.0	-18.7	-12.5	H21. 10～12月実績	-51.9	-15.4	-42.8	-31.8	-49.1	-37.3	-50.0
④採算(収益)	-26.4	-35.7	-32.9	H22. 1～3月実績	-33.6	-26.4	-38.2	-40.0	-31.8	-34.6	-44.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-17.5	-9.3	-3.5	H22. 4～6月実績	-20.0	-30.0	-26.4	-35.7	-26.2	-33.4	-30.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-26.2	-33.4	-30.3								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-24.6	-41.3	-78.5	-39.4	-22.9	-15.4	-26.4	-30.0	-25.7
収益	-37.7	-56.2	-76.8	-52.1	-38.1	-31.8	-40.0	-35.7	-32.9
総合	-33.9	-54.6	-78.5	-49.6	-34.3	-37.3	-34.6	-33.4	-30.3

◎DI (ディフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

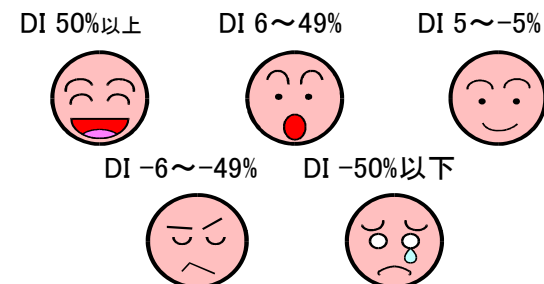
DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)
 製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)
 資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)
 従業員数 :DI=(増加)-(減少)
 業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
 DIが0 ⇒ 景気横バイ
 DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)



製造業

売上DI値は5.8、前期実績1～3月期(7.0)に比して1.2ポイントの下降、収益DI値は△9.6、前期実績1～3月期(△20.9)に比して11.3ポイントの上昇、総合判断DI値は△11.5、前期実績1～3月期(△6.9)に比して4.6ポイントの下降と、売上・総合は横バイからやや悪化傾向、収益は改善傾向である。

来期見通し 売上・収益・総合ともに概ね横這いであるが、僅かに悪化傾向となった。

製造業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	34.6	5.8	3.9
②製品・商品在庫	1.9	-5.8	-5.8
③資金繰り	3.9	-2.0	0.0
④採算(収益)	11.5	-9.6	-15.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-13.4	2.0	-3.9
⑥貴社の業況(総合判断)	13.5	-11.5	-13.4

[食料品]

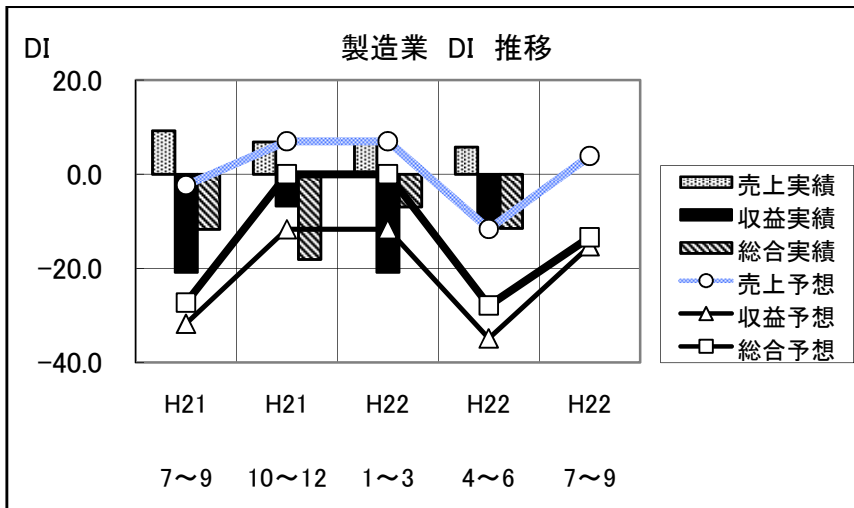
売上は前年同期比ではDI値△16.7と悪化の傾向にあるが、前期比ではDI値16.7と個人消費低迷による深刻な販売不振にあった前期からは好転の傾向。収益では、前年同期比DI値△33.3と悪化しているが、前期比DI値では0.0と横バイ。総合判断では前年同期比DI値△33.3%、前期比ではDI値△33.3%と依然悪化の傾向。

来期見通し 個人消費の低迷に加え、海外製品との価格競争や販売先からの値下げ要請など、国内食品業界の厳しい経営環境の中にあって、売上好転の兆しを感じている企業も見られる。いかに消費者ニーズを捉えて価値を訴求できる商品を提供できるかが課題となっているが、蒲郡メヒカリのブランド化やアカザエビの観光旅館への提供など、地産食材を活用していく動きがみられる。(食品部会)

(食料品)

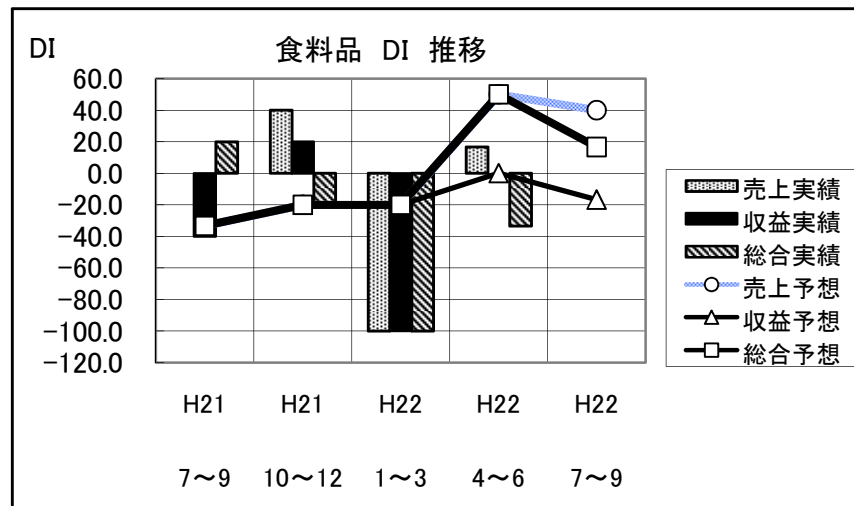
(DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-16.7	16.7	40.0
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	16.7
③資金繰り	-33.3	-33.3	0.0
④採算(収益)	-33.3	0.0	-16.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-50.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	16.7



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	9.3	6.9	7.0	5.8	3.9
収益	-20.9	-6.8	-20.9	-9.6	-15.3
総合	-11.7	-18.1	-6.9	-11.5	-13.4



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	0.0	40.0	-100.0	16.7	40.0
収益	-40.0	20.0	-100.0	0.0	-16.7
総合	20.0	-20.0	-100.0	-33.3	16.7

【織物】

主力商品のジャカードカーテンは、企業間格差はあるが、全体的に仕事量は少なく、稼働率は30%前後で推移。仕事が無く、自然休業となっているケースもある。白生地織物は、広幅・並幅を問わず仕事量は少なく稼働率は70%前後で推移。殆どの企業が操業時間を短縮している。先染織物は、先染の仕事が極端に少なく、空台が目立つ。フル稼働の企業は1社も無い。何れの織物も原材料費(特に綿糸)の上昇、織工賃の低迷により、採算面は非常に厳しく、期近発注による短納期化・小ロット化で稼働率が悪化。また、地元名産元商社の自己破産による影響は大きく、個々の債権金額は小さくとも、業況不振の中での資金繰りは一層厳しい。

来期見通し ジャカードカーテンは、現状維持ができれば良い方で、さらに深刻な状況も考えられる。白生地織物は、平織・ドビー織共に仕事量の増加は難しく、現状維持も厳しい状況。先染織物も同様の傾向。

また、前述の産元商社の自己破産による仕事量の減少は避けられず、採算面は厳しい状況が続く見込み。

総体的に、長期に亘る業況不振の影響で資金繰りは非常に悪化している。(繊維部会)

(織物) (DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-83.3	-50.0	-16.6
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	-16.7
③資金繰り	-50.0	-33.3	-33.3
④採算(収益)	-83.3	-50.0	-16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-50.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-100.0	-50.0	-66.6

【漁網・ロープ】

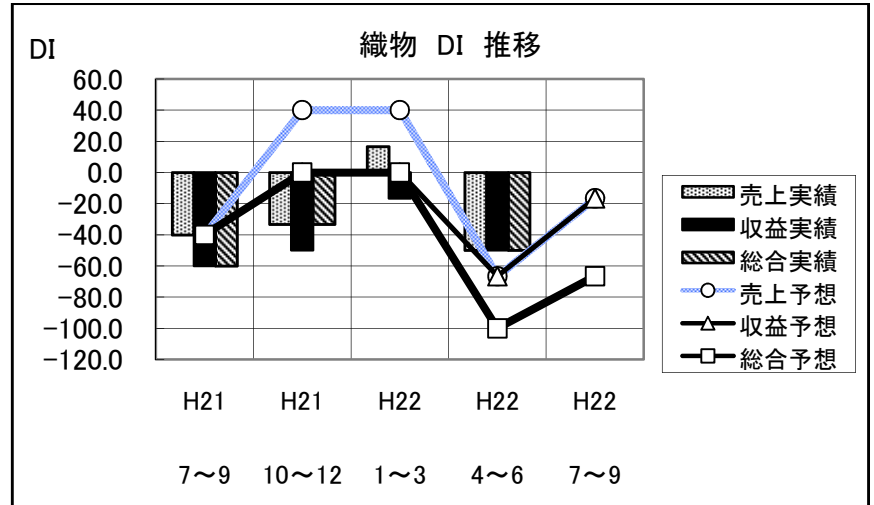
漁網: 季節的要因もあり操業は確保。ただし、競争激化により採算は厳しい。陸上関係の建築ネットでは、落ち込みが厳しい状況。スポーツ防球ネットでは需要期を迎えて一段落。今後の見通し 漁網関係は需要期を過ぎ一段落も、大きな落ち込みは無いと思われる。採算的には厳しい。

建築関係は低迷が続き、当座の需要ものしか売れない。スポーツ防球関係は例年に比べ低い受注を覚悟している。

繊維ロープ: 生産・出荷とも前年並みの水準。輸入も同様である。産業資材商社の破産の影響が懸念される。来期見通し 先行きは厳しい状況に変わりなし(繊維ロープ部会)

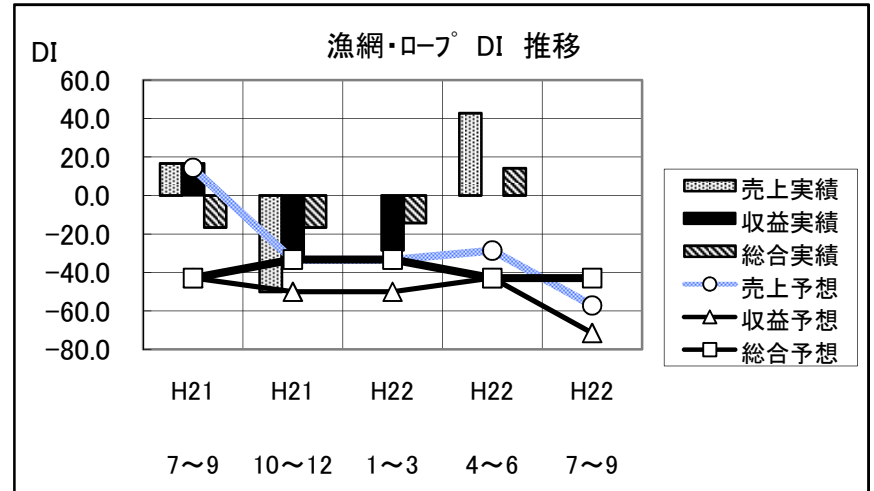
(漁網・ロープ) (DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	42.9	42.9	-57.1
②製品・商品在庫	-14.3	-28.6	-28.6
③資金繰り	28.6	-14.3	-14.3
④採算(収益)	0.0	0.0	-71.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	-14.3	14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	14.3	14.3	-42.9



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-40.0	-33.3	16.6	-50.0	-16.6
収益	-60.0	-50.0	-16.7	-50.0	-16.6
総合	-60.0	-33.3	0.0	-50.0	-66.6



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	16.7	-50.0	0.0	42.9	-57.1
収益	16.7	-33.3	-28.6	0.0	-71.4
総合	-16.6	-16.6	-14.3	14.3	-42.9

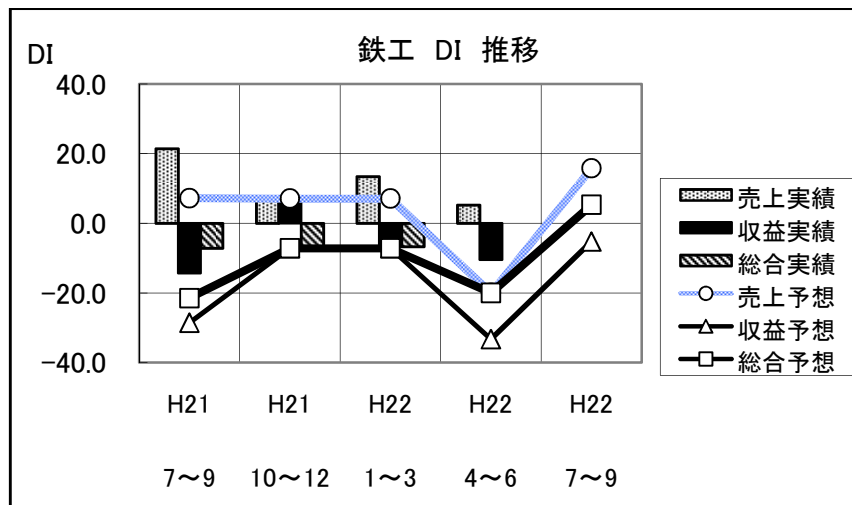
【鉄工】

<工作機械関係>日本工作機械工業会によると、4・5月分の受注動向は昨年比で3倍近くの増加傾向である。昨年の受注は最悪であったが、受注総額800億円台が2カ月続き、一安心である。前回の不況時の受注500億円に対し、3月758億円、4月807億円、5月804億円である。5月は内需286億円に対し、外需518億円であり、内需は少し回復してきたが、いまだ外需依存が続いている。また、今年初頭まで緊急雇用安定助成金を受けていた企業が、現在残業が出て操業度が高くなっている所もある。来期見通し 外需依存の日本では、やはりアメリカ・中国頼みである。企業の操業が戻り、収益改善が何時頃になるかが鍵となる。不安材料として、外国為替、ヨーロッパ(ギリシャ・ポーランド)等の金融不安を懸念。

<自動車部品関係>3・4月のトヨタのリコール問題が、思った以上に大きく影響し、例年以上に減産傾向。7～9月の計画は例年に迫り、3・4月に比べ増産ペースである。以前に比べ操業は80%まで戻った。また、円高により海外生産への移行が顕著である。来期見通し トヨタグループもまたアメリカでの現地生産が復活傾向で、中国生産は増産傾向ながら、為替・労働問題でベトナム・インドネシア等東南アジアに生産拠点の移動が進んでいる。電気自動車の開発動向が注目される。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	73.6	5.2	15.8
②製品・商品在庫	10.5	5.3	5.3
③資金繰り	16.7	5.3	0.0
④採算(収益)	42.1	-10.5	-5.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	5.2	5.3	-5.2
⑥貴社の業況(総合判断)	57.9	0.0	5.3



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	21.4	7.7	13.4	5.2	15.8
収益	-14.3	7.7	-6.7	-10.5	-5.3
総合	-7.2	-7.7	-6.7	0.0	5.3

【化学・プラスチック】

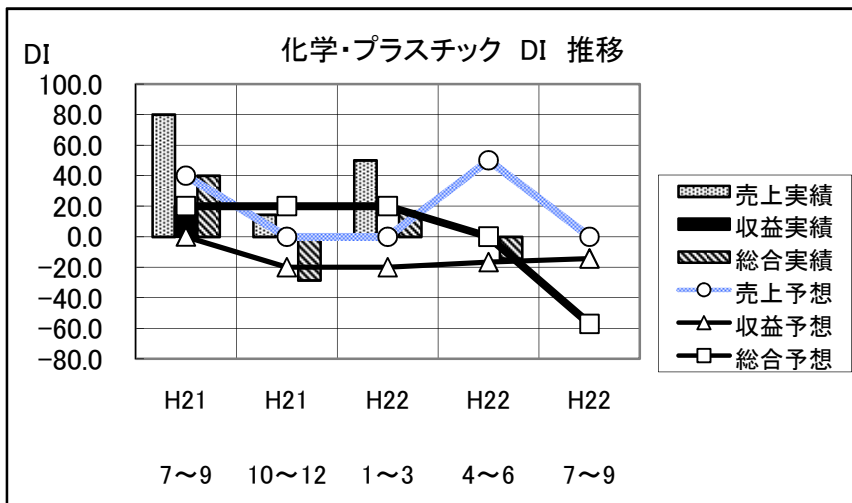
化学工業: 海外向けの出荷が全体的に好調であった。特に、中国向けが伸びた時期。国内向けは昨年比で改善傾向であるが、好調時に比べるとやや劣る。最も懸念されるのは円高で、このまま続くと、海外向けの出荷に歯止めがかかりかねない。来期見通し 海外向け出荷は好調を維持する見込み。しかし、円高、原材料の高騰などが懸念され、見通しも不透明である。

プラスチック: 原材料価格の上昇を販売価格に転嫁できず、収益が徐々に悪化する傾向。国内向け販売も低調に推移し、利幅も少なく非常に厳しい時期であった。

来期見通し 収益を大きく左右する原材料価格が、更に上昇する見込み。価格が落ち着く事を期待しているが、4～6月よりも収益の悪化が予想される。(化学部会)

(化学・プラスチック) (DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	57.1	0.0	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-14.3
③資金繰り	14.3	14.3	14.3
④採算(収益)	57.1	0.0	-14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	14.3	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	28.6	-14.3	-57.1



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	80.0	14.3	50.0	0.0	0.0
収益	20.0	0.0	0.0	0.0	-14.3
総合	40.0	-28.6	16.6	-14.3	-57.1

建設業

当期は年度当初の公共工事が少ない時期であり、売上DI値は△76.9、前期実績1～3月期(△45.4)に比して31.5ポイントの下降、収益DI値は△84.6、前期実績1～3月期(△54.4)に比して31.5ポイントの加工、総合判断DI値は△69.2、前期実績1～3月期(△54.5)に比して14.7ポイント下降と、売上・収益・総合とも悪化傾向である。

来期見通し 年度当初に比べ、来期の売上・収益・総合とも僅かながら改善傾向である。しかし、内需の回復が遅れるなか、建設業界を取り巻く環境は、公共工事は受注金額の低下、企業の設備意欲の低迷、住宅着工件数の横這いと、公共工事・民間工事とも低迷が長引いている。来期も、低調な状況が続くものと予想される。内需の回復に期待したい(建設部会)

建設業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-76.9	-76.9	-69.2
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-9.1
③資金繰り	-38.5	-23.1	-53.8
④採算(収益)	-84.6	-84.6	-76.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-23.1	-15.4	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-61.5	-69.2	-76.9

卸売業

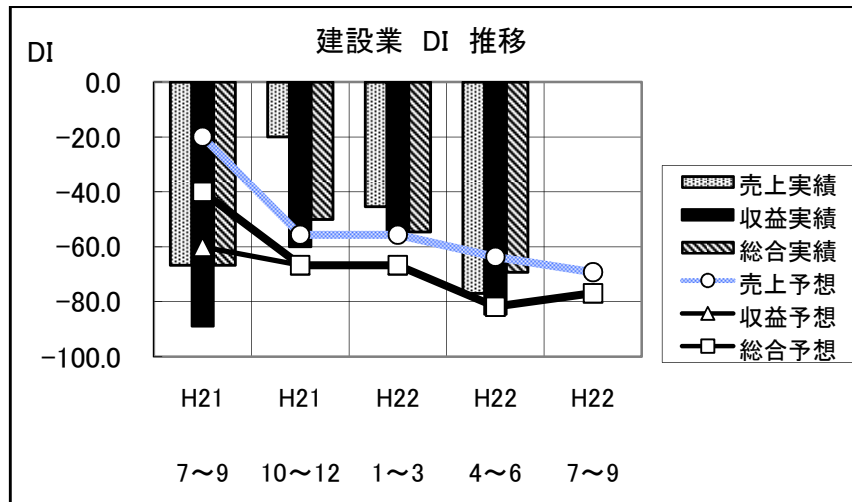
売上DI値は△38.1、前期実績1～3月期(△63.1)に比して25ポイントの上昇、収益DI値は、△61.9前期実績1～3月期(△68.4)に比して6.5ポイントの上昇、総合判断DI値は△57.1、前期実績1～3月期(△68.4)に比して11.3ポイント上昇と、売上・収益・総合ともに改善傾向である。

来期見通し 売上は悪化傾向、収益は横ばい、総合は改善傾向である。

卸売業

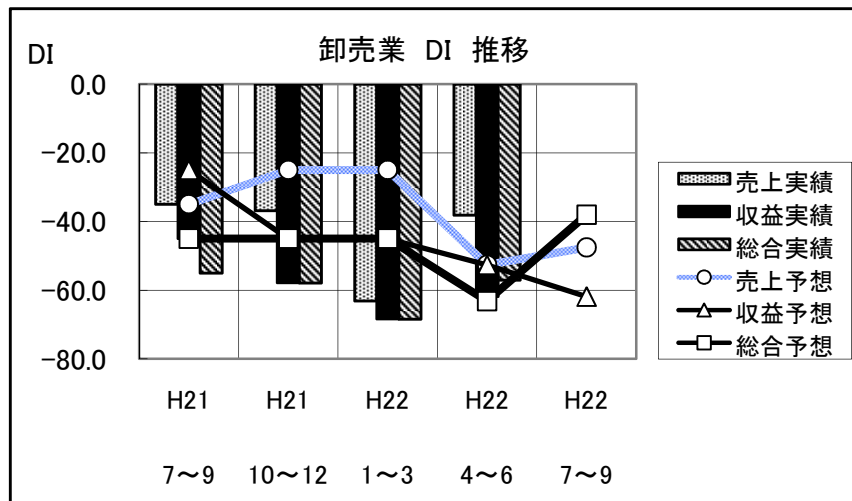
(DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-76.2	-38.1	-47.6
②製品・商品在庫	-28.6	-28.6	-19.0
③資金繰り	-14.3	-23.8	0.0
④採算(収益)	-61.9	-61.9	-61.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	4.8	0.0	-19.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-52.4	-57.1	-38.1



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-66.7	-20.0	-45.4	-76.9	-69.2
収益	-88.9	-60.0	-54.5	-84.6	-76.9
総合	-66.7	-50.0	-54.5	-69.2	-76.9



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-35.0	-36.8	-63.1	-38.1	-47.6
収益	-45.0	-57.9	-68.4	-61.9	-61.9
総合	-55.0	-57.9	-68.4	-57.1	-38.1

【繊維卸】

産業資材関連: 車両関係は少しずつ回復。も先行き不透明な状況。来期見通し 住宅着工件数や車両関係が回復しないと、引き続き厳しい状況が予想される。

寝装関連: 夏物需要期も、天候不順の影響で販売が苦戦。昨年のジェル商品のようにリードする品物もなく、低価格商品中心に推移。6月に入り通常の動きが戻ってきた。来期見通し 秋冬商品の導入は年々おそくなり、最初の店頭品揃えは9月中旬がピーク。7~8月は夏物バーゲン中心で売上利益とも上昇は見込めない。原材料高、デフレの影響で採算は厳しい。

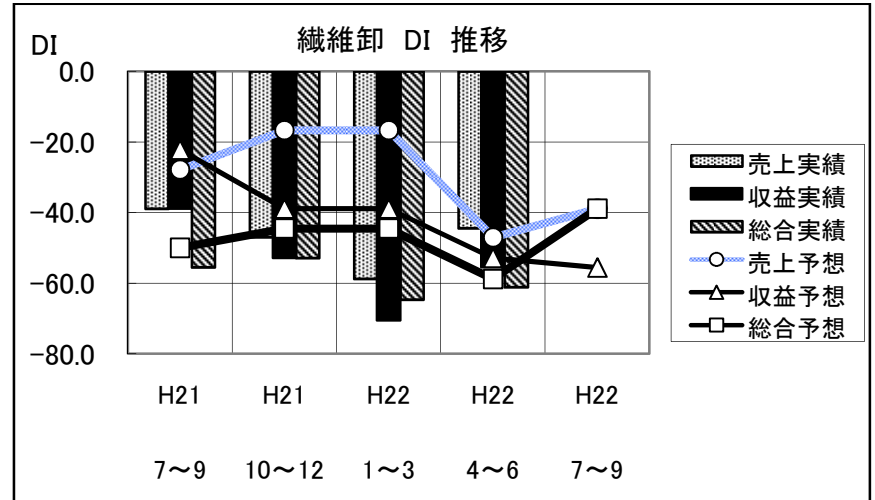
インテリア関連: オフシーズンとなるが、近年トップシーズンとの売上の差が無くなっており、売上の確保が必須。原系メーカーの海外生産移転により、原材料手配に配慮が必要。来期見通し 売上は低調なまま横ばい。回転率を上げ、効率良く商品の出荷をする。原材料高、原材料手配に注意。

衣料関連: 4~5月春夏商品の最後に期待したが、天候不順も手伝い昨年比20%減。秋冬商品も鈍く、6月も苦戦が続いた。来期見通し 原材料高。製品安の状況が続く。先の見通しが立たず、安易なモノづくりもできずに大苦戦か。(繊維部会)

(繊維卸)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月~6月 に比べて	前期比 平成22年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-72.2	-44.4	-38.9
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-22.2
③資金繰り	-22.2	-33.3	-5.5
④採算(収益)	-55.6	-55.5	-55.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	11.1	5.6	-11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-61.1	-38.9



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-38.9	-47.0	-58.8	-44.4	-38.9
収益	-38.9	-52.9	-70.6	-55.5	-55.6
総合	-55.5	-52.9	-64.7	-61.1	-38.9

小売業

売上DI値は△71.0、前期実績1~3月期(△38.5)に比して32.5ポイントの下降。収益DI値は△43.8、前期実績1~3月期(△42.3)に比して1.5ポイントの下降、総合判断DI値は△46.9、前期実績1~3月期(△42.3)に比して4.6ポイントの下降、売上・収益・総合とも悪化傾向である。来期見通し 売上は改善傾向、収益は悪化傾向、総合は横ばいである。

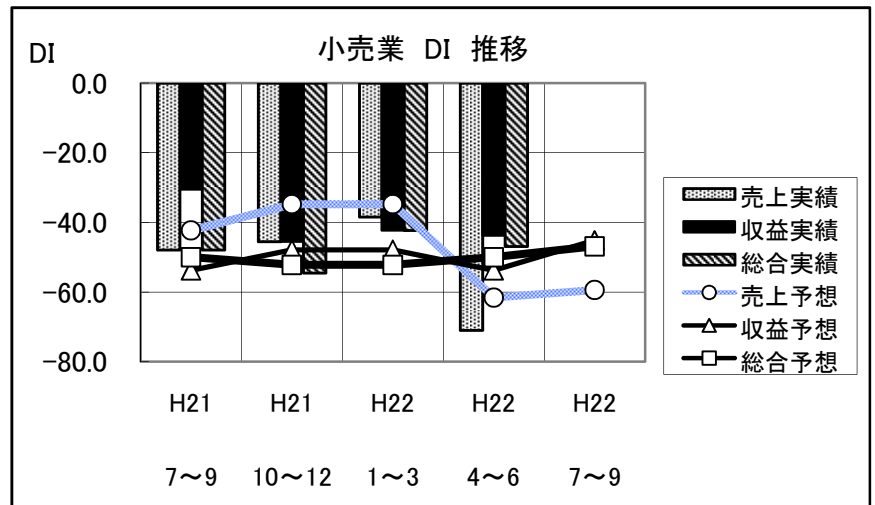
業界全体の売上は前期と比べて横ばいで推移している。消費者の低所得による節約志向によって、必要最低限のものしか買わない顧客が多いため、売上が伸びない。家電製品を取り扱う店舗は、景気対策のエコポイント制度によって消費者の買い替え需要が高まり、売上が回復してきている。最近の健康ブームにより、健康関連商品がよく売れている。

来期見通し 業界全体としての売上はしばらく横ばいで推移していくものと思われる。お中元や夏物の商品を扱う店舗では、夏物商戦の時期に入るため、売上の増加を期待したい。最新の情報を常に収集し、流行する売れ筋商品を多く取りそろえて、消費者のニーズに対応できるかがポイントである。(商業部会)

小売業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月~6月 に比べて	前期比 平成22年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-56.3	-71.0	-59.4
②製品・商品在庫	-6.6	-3.4	0.0
③資金繰り	-40.6	-37.5	-32.3
④採算(収益)	-46.9	-43.8	-45.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-36.7	-30.0	-6.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-53.1	-46.9	-46.9



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-47.9	-45.5	-38.5	-71.0	-59.4
収益	-30.5	-45.5	-42.3	-43.8	-45.2
総合	-47.9	-54.6	-42.3	-46.9	-46.9

【飲食】

売上は横這い。昼の来客数は確保できるが、夜は予約以外のフリーの客足が伸びない。家族・個人利用が少なく、グループ利用が多い傾向にある。また、4月は歓迎会利用が比較的多かった。

来期見通し 一店逸品運動「おらがの店自慢」は、めん類関係の飲食店で効果があった。蒲郡市観光協会発行の「がまポン」の利用が多いが、協賛金額の関係で参加店が限られてくる。蒲郡まつり花火大会等、夏のイベントでの観光客の利用に期待したい。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-100.0	-100.0	-40.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-100.0	-80.0	-50.0
④採算(収益)	-80.0	-60.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-80.0	-60.0	-20.0

【石油等その他小売】

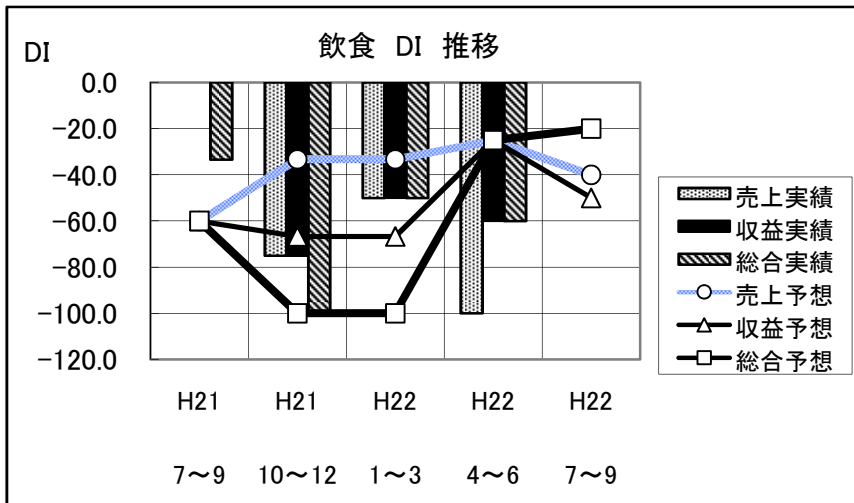
4～6月の原油価格は、ギリシャの財政危機に端を発したEU圏における金融不安を背景に、70～75ドルを上下落するように推移。原油価格は、直近では欧州圏の財政問題の一服感、米国景気回復による堅調な株価を背景に景気先行き懸念も薄らぎつつあり、今後の石油需要増への期待で直近では78ドル前後まで上昇。今後もEU圏の動向を敏感に捉え推移する見込み。このような原油価格動向を受けた国内コスト状況は、月次コストの見通しを43ヶ月間連続で値上がり。市場連動の週決め価格改定方式では、原油価格の変動や需給動向等を反映する国内先物市場、現物スポット市場価格の影響を受け、週単位上昇するため、スムーズな価格転嫁と、必要適正マージンの確保がポイントである。

来期見通し WTI原油価格は、EU圏の財政問題から急落したのち一段落、この不安は根強く残るものの、景気の回復も見受けられ、現在では77ドル前後まで上げた。今後も経済状況に敏感に反応し推移すると思われるが、急騰する可能性は少ない状況。国内状況では需要が減少し、原油価格の変動や需給動向等を反映する国内先物市場、現物スポット市場価格の影響を受ける価格体系の中、SS業界では、週単位での仕切り価格の変動をいかにスムーズに価格転嫁し、必要適正マージンを確保できるかがポイントとなる。(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

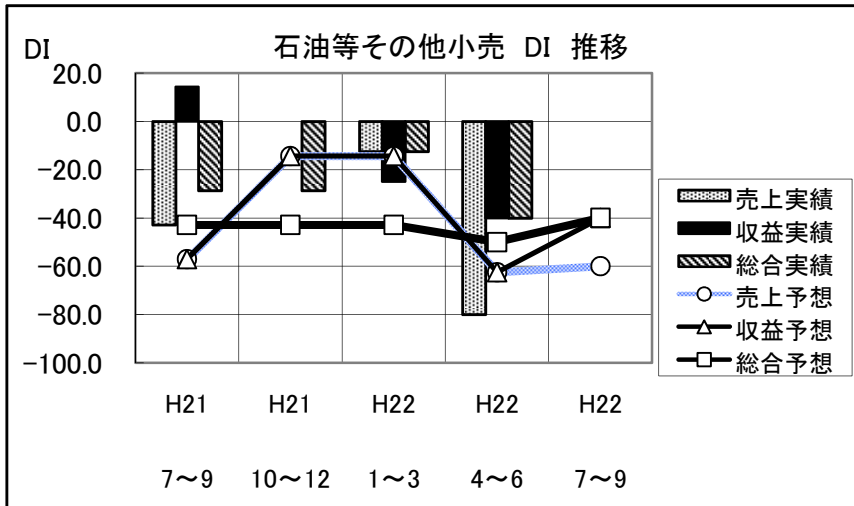
(DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-30.0	-80.0	-60.0
②製品・商品在庫	-20.0	-10.0	-10.0
③資金繰り	-20.0	-20.0	-20.0
④採算(収益)	-40.0	-40.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-40.0	-30.0	-10.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	-40.0	-40.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	0.0	-75.0	-50.0	-100.0	-40.0
収益	0.0	-75.0	-50.0	-60.0	-50.0
総合	-33.4	-100.0	-50.0	-60.0	-20.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-42.8	0.0	-12.5	-80.0	-60.0
収益	14.3	0.0	-25.0	-40.0	-40.0
総合	-28.6	-28.6	-12.5	-40.0	-40.0

サービス業

売上DI値は△35.3、前期実績1～3月期(△40.0)に比して4.7ポイントの改善、収益DI値は△43.7、前期実績1～3月期(△20.0)に比して23.7ポイントの下降、総合判断DI値は△23.5、前期実績1～3月期(△20.0)に比して3.5ポイントの下降と、売上は改善傾向、収益・総合は悪化傾向である。

来期見通し 売上・収益・総合ともに改善傾向にあり、盛夏に向けて期待される。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-29.4	-35.3	-5.9
②製品・商品在庫	-7.7	-7.7	0.0
③資金繰り	-23.5	-23.5	0.0
④採算(収益)	-25.0	-43.7	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-5.9	0.0	29.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-41.2	-23.5	-11.8

[旅館・観光施設]

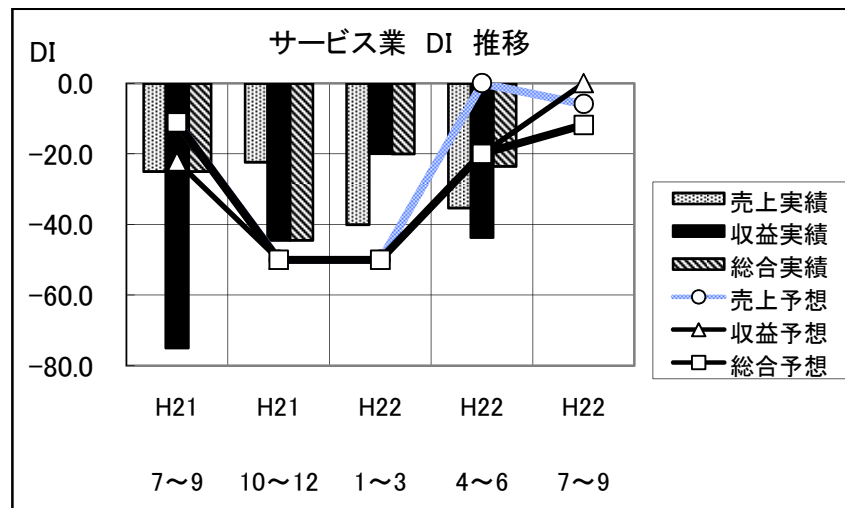
旅館: 宿泊者数は横ばい、または微減で推移。県内の企業の伸び悩みもあり、法人利用が低迷。収益面でも、低価格化、小グループ化の影響で客単価が伸びず厳しい状況。来期見通し 夏休みを迎え家族利用に期待。消費低迷もあり、大幅な伸びは期待できないが、昨年同期比・前期比での売上・収益・総合ともに改善が見込まれる。ランチバイキングや、0泊2食に代表される宿泊を伴わないステイプラン、宴会利用など、様々な利用形態の顧客を集めていきたい。なお、参議院選挙による出控えが、やや懸念される。

観光施設: 5月の大型連休は比較的天候に恵まれ、入込客数・売上が対前年比で伸びている施設もあるが、消費低迷の影響により、土産品等の販売や、高級イメージを訴求するサービスは伸び悩み、収益の改善には到らなかった。来期見通し 蒲郡市の観光のトップシーズンにあたる盛夏に向け、来場者の増加が期待される。消費低迷ではあるが、少しずつ個人消費が戻りつつあるなか積極的に誘客を図りたい。また、高速道路の社会実験等の動向にも注目される。

(旅館)

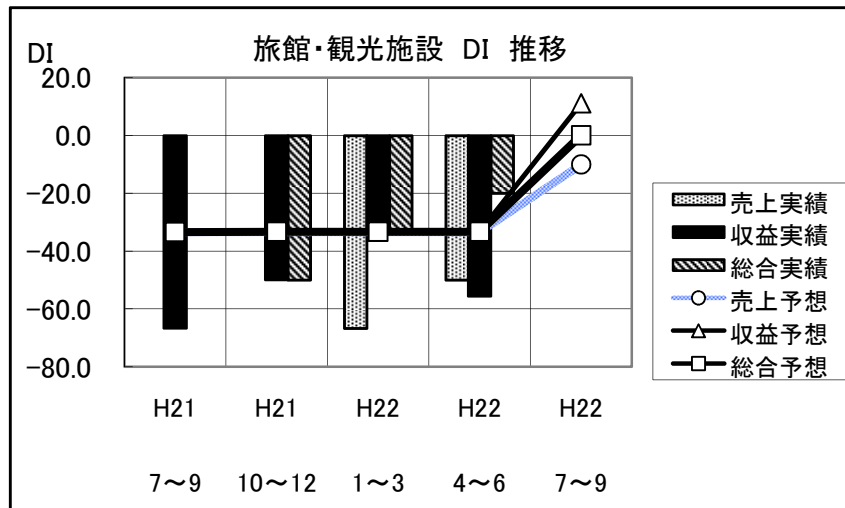
(DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-30.0	-50.0	-10.0
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	0.0
③資金繰り	-30.0	-30.0	0.0
④採算(収益)	-11.1	-55.6	11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-10.0	40.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	-20.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-25.0	-22.3	-40.0	-35.3	-5.9
収益	-75.0	-44.5	-20.0	-43.7	0.0
総合	-25.0	-44.5	-20.0	-23.5	-11.8



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	0.0	0.0	-66.7	-50.0	-10.0
収益	-66.7	-50.0	-33.3	-55.6	11.1
総合	0.0	-50.0	-33.3	-20.0	0.0

運輸通信業

売上DI値は0.0、前期実績1～3月期(-50.0)に比して50.0ポイントの上昇、収益DI値は△11.1、前期実績1～3月期(△66.7)に比して50.0ポイント下降、総合判断DI値は△66.7、前期実績10～12月期(△16.6)に比して50.1ポイントの下降と、売上・収益・総合ともに悪化傾向である。

来期見通しについては、売上・収益・総合ともに、改善傾向である。

運輸通信業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	20.0	0.0	0.0
②製品・商品在庫	-50.0	-50.0	-50.0
③資金繰り	0.0	-22.2	-10.0
④採算(収益)	-10.0	-11.1	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-40.0	-33.3	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	-22.2	-20.0

[旅客・貨物輸送・水運]

海運関係: 国内の荷動きは一部持ち直すも力強さに欠ける。輸入は新規住宅着工件数の落ち込みで、木材(丸太・製品)が減少。輸出は東南アジア向けの鋳工業製品が前年同期比で微増。三菱自動車の完成車輸出台数は、前年同期比5.3倍で、中国向けが目立つ。来期見通し 内需回復が鈍いなか、国内貨物総輸送量は11年連続のマイナスが必至。消費関連貨物は、個人消費がやや強まる事と前年度の減少の反動で、小幅増加の見込み。輸送機関別では、鉄道は政府のモーダルシフト政策を受けて、自動車部品や飲料関係のコンテナ利用が増加するも、対前年比微増の見通し。営業用トラックは、夏の需要期に向け消費関連、生産関連貨物に数%台の増加が見込まれるが、建設関連貨物の不調で、全体では1%以下の増加に留まる見込み。蒲郡市においては、木材輸入は前年同期比で微増も、引き続き低調に推移。東南アジア向けの鋳工業製品の輸出は、中国向けを中心に前年並み。三菱自動車の完成車輸出は、新型車投入の効果もあり、前期並みで推移する見込み。欧州の通貨不安が懸念材料。

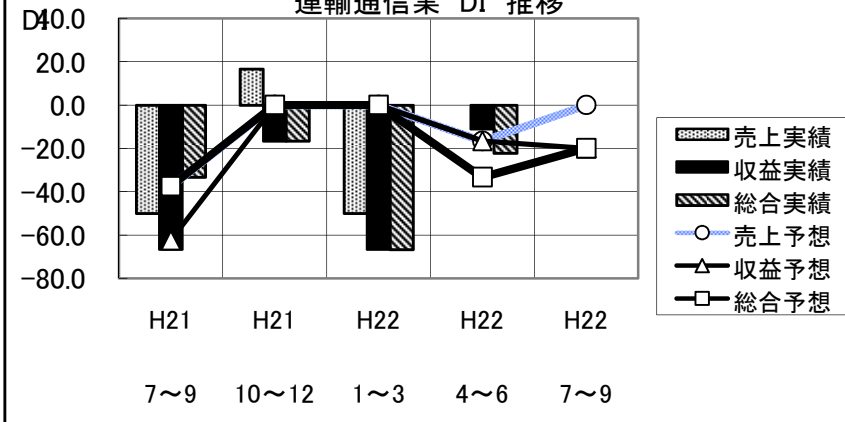
バス業界関係: 底であった昨年比では、法人団体旅行。グループ・家族旅行の予約は増加。体験等のツアー等新しい形態が増えてきている。来期見通し 予約数は前年同期比で増加。高速道路の無料化は、自家用車で旅行の増加と、バス利用の減少に繋がる傾向があるため、動向に注目(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成21年4月～6月 に比べて	前期比 平成22年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成22年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	22.2	-12.5	11.1
②製品・商品在庫	-50.0	-50.0	-50.0
③資金繰り	0.0	-25.0	0.0
④採算(収益)	-11.1	-12.5	-11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	-37.5	-22.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-11.1	-12.5	-11.1

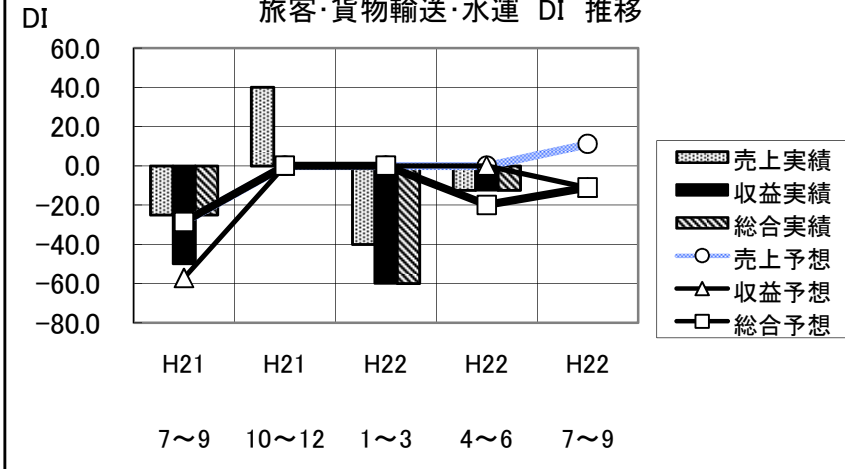
運輸通信業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-50.0	16.7	-50.0	0.0	0.0
収益	-66.7	-16.7	-66.7	-11.1	-20.0
総合	-33.3	-16.6	-66.7	-22.2	-20.0

旅客・貨物輸送・水運 DI 推移

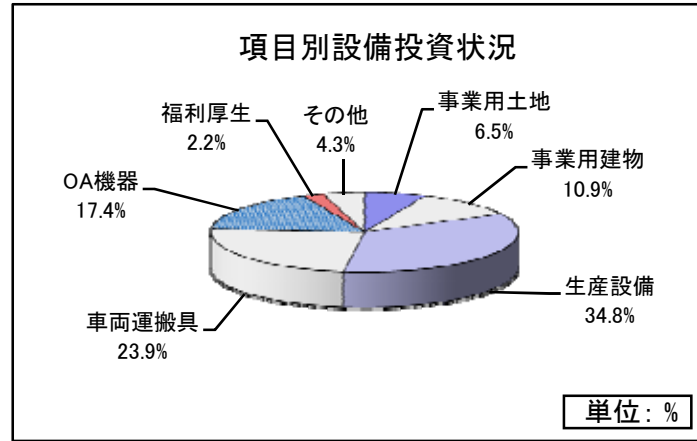
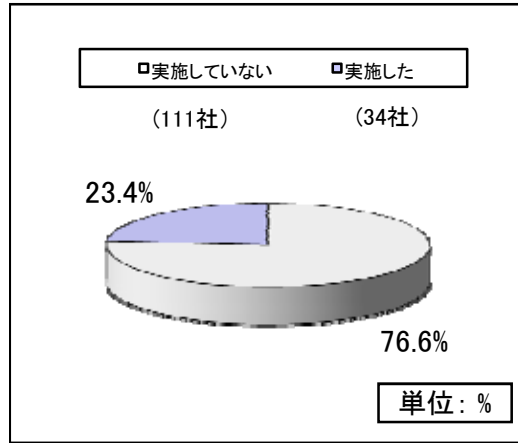


<業況判断DIの推移>

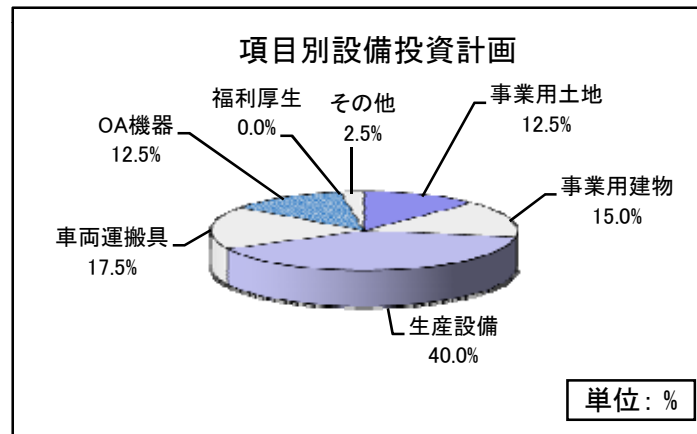
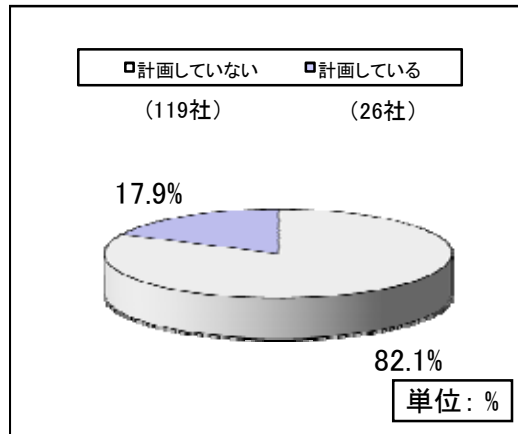
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-25.0	40.0	-40.0	-12.5	11.1
収益	-50.0	0.0	-60.0	-12.5	-11.1
総合	-25.0	0.0	-60.0	-12.5	-11.1

7. 設備投資動向

＜今期(H22. 4～6月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H22. 7～9月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	3	5
事業用建物	5	6
生産設備	16	16
車両運搬具	11	7
OA機器	8	5
福利厚生	1	0
その他	2	1
計	46	40

(単位:件)

◎今期(H22.4～6月)、来期(H22.7～9月)設備投資実施、計画動向

(単位:事業所)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H22.4～6月)	111	36	11	17	30	10	7
2. 来期 (H22.7～9月)	119	38	12	21	29	12	7

8. 経営上の問題点

145 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	109 75.2%
2	利幅の縮小	75 51.7%
3	競争激化	66 45.5%
4	原材料(燃料)高	34 23.4%
5	消費者ニーズの変化の対応	31 21.4%

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 52 社	売上の停滞・減少 36 社 69.2%	利幅の縮小 31 社 59.6%	競争激化 22 社 42.3%
建設業 13 社	利幅の縮小 13 社 100.0%	競争激化 11 社 84.6%	売上の停滞・減少 10 社 76.9%
卸売業 21 社	売上の停滞・減少 19 社 90.5%	競争激化 11 社 52.4%	利幅の縮小 9 社 42.9%
小売業 32 社	売上の停滞・減少 27 社 84.4%	利幅の縮小 13 社 40.6%	競争激化 12 社 37.5%
サービス業 17 社	売上の停滞・減少 9 社 52.9%	競争激化 9 社 52.9%	消費者ニーズの変化の対応 7 社 41.2%
運輸通信業 10 社	売上の停滞・減少 8 社 80.0%	利幅の縮小 5 社 50.0%	消費者ニーズの変化の対応 4 社 40.0%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.47

番号	調査項目	単位	H22. 7報告	基準日	H22. 4報告	基準日	H22. 1報告	基準日	H21. 7報告	基準日	出典
1	人口	人	81,219	H22.7.1	81,280	H22.4.1	81,471	H22.1.1	81,512	H21.7.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳 (日本人のみ)
2	世帯数	世帯	29,078	H22.7.1	29,045	H22.4.1	29,009	H22.1.1	28,916	H21.7.1	"
3	15才～65才生産人口	人	51,469	H22.7.1	51,675	H22.4.1	51,974	H22.1.1	52,212	H21.7.1	蒲郡市 市民課
4	外国人登録者数	人	2,102	H22.7.1	2,114	H22.4.1	2,121	H22.1.1	2,146	H21.7.1	"
5	建築確認届出件数	件	85	H22.3～H22.5月	83	H21.12～H22.2月	134	H21.9～H21.11月	92	H21.3～H21.5月	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
6	全国完全失業率	%	5.2	H22.5月	4.9	H22.2月	5.2	H21.11月	5.2	H21.5月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	4.7	H22.1～3月	4.2	H21.10～12月	5.0	H21.7～9月	3.9	H21.1～3月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
7	全国有効求人倍率	倍	0.48	H22.4月	0.47	H22.2月	0.43	H21.11月	0.44	H21.5月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.30	H22.4月	0.36	H22.2月	0.29	H21.11月	0.24	H21.5月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除く)前年比	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 前期比(%) 年率	消費支出 (全国勤労者)前年比%	新車販売台数 (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	520		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	514		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	508		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	513		▲ 1.2	-
2001年度	平均 340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	492.3	▲ 0.8	▲ 3.4	405.9
2002年度		5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	489.9	▲ 0.8	▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	493.7	2.1	▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	498.5	2.0	0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	503.2	2.3	▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	510.9	2.3	▲ 2.2	371.5
2007年1月	264	4.0	1.06	7.6	92,219			0.6	23.3
(平成19年)2月	270	4.0	1.05	5.1	87,360	139.2	3.5	1.3	32.2
3月	281	4.0	1.05	▲ 11.5	99,488			0.1	48.7
4月	268	3.8	1.05	2.4	107,255			1.1	21.7
5月	258	3.8	1.06	6.3	97,076	137.6	2.3	0.4	23.5
6月	241	3.7	1.07	▲ 8.2	121,149			0.1	29.1
7月	234	3.6	1.06	9.6	81,714			▲ 0.1	28.7
8月	249	3.8	1.05	2.5	63,076	138.8	1.7	1.6	22.7
9月	269	4.0	1.04	▲ 4.6	63,018			3.2	32.8
10月	271	3.9	1.02	12.2	76,920			0.6	26.9
11月	246	3.8	1.00	5.6	84,252	144.9	1.9	▲ 0.6	29.6
12月	231	3.8	0.98	▲ 1.9	87,214			2.2	23.6
2008年1月	256	3.8	0.98	18.8	86,971			3.6	24.1
(平成20年)2月	266	3.9	0.98	1.0	82,962	140.9	1.2	0.0	32.2
3月	268	3.8	0.95	4.2	83,991			▲ 1.6	47.1
4月	275	4.0	0.93	▲ 0.6	97,930			▲ 2.7	23.2
5月	270	4.0	0.93	3.6	90,804	137.1	▲ 0.4	▲ 3.2	22.1
6月	265	4.1	0.90	4.9	100,929			▲ 1.8	28.1
7月	256	4.0	0.88	▲ 4.6	97,212			▲ 0.5	30.2
8月	272	4.1	0.85	▲ 10.1	96,905	136.8	▲ 1.4	▲ 4.0	19.3
9月	270	4.0	0.83	▲ 2.8	97,184			▲ 2.3	31.0
10月	255	3.8	0.80	▲ 27.2	92,123			▲ 3.8	23.3
11月	256	4.0	0.76	▲ 33.1	84,277	138.9	▲ 4.1	▲ 0.5	21.5
12月	270	4.3	0.73	▲ 24.1	82,197			▲ 4.6	18.3
2009年1月	277	4.1	0.67	▲ 49.4	70,688			▲ 5.9	17.4
(平成21年)2月	299	4.4	0.59	▲ 44.8	62,303	128.3	▲ 8.9	▲ 3.5	21.8
3月	335	4.8	0.52	▲ 30.5	66,628			▲ 0.4	32.3
4月	346	5.0	0.46	▲ 42.5	66,198			▲ 1.3	16.6
5月	347	5.2	0.44	▲ 44.6	62,805	129.2	▲ 5.7	0.3	17.8
6月	348	5.4	0.43	▲ 40.9	68,268			0.2	24.3
7月	359	5.7	0.42	▲ 33.3	65,974			▲ 2.0	28.9
8月	361	5.5	0.42	▲ 31.9	59,749	129.7	▲ 5.2	2.6	19.8
9月	363	5.3	0.43	▲ 26.6	61,181			1.0	32.1
10月	344	5.1	0.43	▲ 12.2	67,120			1.6	26.3
11月	331	5.2	0.43	▲ 9.2	68,198	137.4	▲ 1.1	2.2	29.3
12月	317	5.1	0.43	1.9	69,298			2.1	25.0
2010年1月	323	4.9	0.46	16.7	64,951			1.7	23.8
(平成22年)2月	324	4.9	0.47	26.7	56,527	134.2	4.6	▲ 0.5	29.4
3月	350	5.0	0.49	13.1	65,008			4.4	44.3
4月	356	5.1	0.48	29.4	66,568			▲ 0.7	22.2

(総務省)

(厚労省)

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)